

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	佐谷 智
5-8	施策名	生活環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、農林課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	生活環境(水質・大気・土壌)が保全されている。	・市民 ・市内の生活環境(水質・大気・土壌)	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
実績値					41,278	40,483	39,692	38,905	38,422		
②市域面積			km <sup>2</sup>	見込値	180.06	180.06	181.06	182.06	183.06		
				実績値	181.06	180.06	180.06	180.06	180.06		
				見込値							
				実績値							
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
生活環境(水質・大気・土壌)が保全されている。		①省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合	%	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0		
					実績値	66.5	69.9	65.1	74.1	74.1	
				②不法投棄件数	件	目標値	50	50	50	50	50
						実績値	61	72	47	69	64
				③桜川の水質(BOD)(市内の最下流「地藏橋」地点)	mg/L	目標値	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
	実績値					0.9	1.4	1.0	1.1	0.9	
			目標値								
			実績値								
			目標値								
			実績値								
	成果指標設定の考え方	○水質・大気が保全される(環境問題への理解を深め環境保全への行動を実践すること)に対する成果指標は、市民アンケートにおいて、①「省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合」や②「不法投棄件数」、③「桜川の水質」で把握する。									
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、市民アンケートより求める。③桜川の水質(BOD)(市内の最下流「地藏橋」地点)は、霞ヶ浦流入河川水質調査実績(委託により毎年2回調査を実施)より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	・省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、令和2年度は74.1%、令和3年度は74.1%であった。前年度と比べ同数で、成果は変わらない。 ・不法投棄事案件数は、令和2年度69件、令和3年度は64件であった。前年度と比べ5件減っており、成果がどちらかといえば向上した。 ・桜川の水質(BOD)については、令和2年度が1.1mg/l、令和3年度が0.9mg/lであり、数値は0.2mg/l減少し、成果が向上した。生息する生物種による水質階級では「Iきれいな水～II少し汚れた水」に属している。 ※水質調査法による水質階級は Iきれいな水 II少し汚れた水 III汚い水 IV大変汚い水の4階級に分類。 「省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合」が変わらず、「不法投棄事案件数」と、「桜川の水質(BOD)」の成果は向上しており、成果がかなり向上した成果水準とした。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	・省エネなど地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、令和3年度の目標値80.0%に対し74.1%と5.9ポイント目標値を下回った。 ・不法投棄件数は、令和3年度目標50件に対し64件で、目標値を下回った。 ・桜川の水質(BOD)は、令和3年度目標1.1mg/lに対し0.9mg/lで、目標値を上回った。環境基準A(BOD2.0mg/l以下)を桜川は大きく上回っている。 ・「桜川の水質(BOD)」が目標値より上回っているが、他の2項目については目標値を下回っていることから、「一部の成果指標で目標値を下回った」と評価した。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和3年度は、「エコグッズ配布事業」、「エコショップ制度実施事業」、「霞ヶ浦問題協議会参画事業」の貢献度が大きかった。 エコグッズ配布事業については、コロナ禍であったが、窓口での配布に切替えて通年通して啓発を行った。また、広報誌や市HPでの省エネ取組を掲載し周知を図った。 「エコショップ制度実施事業」は、広報誌や市HPで周知し、新規事業所を募集を行うとともに、認定事業所の更新を行った。 「霞ヶ浦問題協議会参画事業」は、コロナウイルス感染症対策で多くの事業が中止となったが、窓口配布や市HP、広報誌掲載など啓発を行った。	引き続きエコグッズ配布しながら、地球温暖化対策から、霞ヶ浦流域対策、ごみの散乱、不法投棄を問題提起し、市民参加型の環境美化活動、市民自ら省エネ活動や普及促進を図っていく。 不法投棄及び水質の監視強化に努めるとともに、地域住民や関係機関と連携して不法投棄の防止に努め、マナーアップの意識啓発を行うとともに、内部組織強化として警察官OBを任用、不法投棄対策室を設置し、未然防止対策を図る。 環境問題の意識向上のため環境啓発活動や環境学習を充実し、環境意識の向上を図っていくことが必要である。